モア通信

more 모아 京都モアネット

No.17

2024年3月31日

京都での支援体制の構築に向けて

阪　口　春　彦（モアネット運営委員）

先日、国際協力NGOである「特定非営利活動法人 アクセス－共生社会をめざす地球市民の会」による「映画視聴『フィリピンパブ嬢の社会学』&原作者とNGO代表のトークライブ」に参加しました。

『フィリピンパブ嬢の社会学』という映画は、日本で働くフィリピン人女性の実態をリアルに描いていて、日本で暮らす外国人へのまなざしを問い直すとても興味深い作品でした。

フィリピン人に限らず、さまざまな国籍、文化的背景を持ちながら日本で暮らす人たちが増えていて、その人々に対する支援の体制整備の必要性が高まっています。

モアネットでは、さまざまな国籍、文化的背景を持ちながら京都で暮らす人たちに対する支援に取り組んできましたが、モアネット以外の団体等によってもさまざまな支援が行われています。しかし、それぞれの団体等のつながりが弱いため、それぞれの団体がどのような活動を行っているのか、どのような成果をあげているのか、どのような課題を抱えているのか、などが十分に共有されていない状況にあります。また、さまざまな国籍、文化的背景を持ちながら京都で暮らす人たちがどのような生活課題を抱えているのか、どこにどのようなニーズがあるのか、といった全体像も把握することが難しい状況にあります。

そこで、モアネットでは、さまざまな国籍、文化的背景を持ちながら京都で暮らす人たちに対する支援に取り組んでいる団体等に声をかけ、それぞれの団体等の活動や課題等について情報共有し、交流を深め、連携の可能性を探るような場を設定したいと考えています。

このことをとおして、今後どのような支援体制の構築が求められるのか、その実現のための課題にはどのようなものがあるのかといったことを明らかにしていき、京都での支援体制の構築につなげていきたいと考えています。

京都モアネット 2022年度 事業報告

1．多文化福祉委員派遣事業

多文化福祉委員が外国ルーツの高齢者や障害者の生活支援活動を行いました。主に関係機関からの依頼に応じて、自宅を訪問し、安否確認・やさしい日本語で話し相手や傾聴、生き甲斐支援等を行いました。孤立しがちな人には、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら傾聴し見守りをしました。また、日本語でのコミュニケーションが難しい外国人高齢者やしんどさを抱えている人たちには、医療・福祉・学校・住宅関係者等との間で通訳したり、行政手続きのお手伝い、母語での傾聴を行いました。コロナ感染対策を行いつつ、22人の福祉委員が72人に対して965件の生活支援活動を行いました。

2．多文化福祉委員の研修・充実化に向けて

活動している多文化福祉委員が集まって毎月「お茶会」を行い、活動報告・情報交換・医療・福祉や他地域での外国人支援に関する学習を行いました。

3．外国籍住民理解に向けての啓発活動

多文化ルーツの人たちの抱えている課題を知り、共生の在り方を発信するため、Facebookを活用、また短い動画作成を行いました。

4．他団体との連携

京都市国際交流協会の「きょうと多文化支援ネットワーク」に参加し、在京外国人グループの動画紹介づくりに協力しました。

また、NTTデータ経営研究所より、要介護外国人高齢者への介護において、支援する側・される側それぞれの課題についてヒアリングを受けました。外国人介護者が、外国人高齢者と日本人介護者の通訳や、日本人介護者へ多文化理解を促す役割を担うことによって、文化や言語の異なる外国人高齢者や障害者と日本人がともに安心して暮らせる社会を目指すことが必要であることを伝えました。

京都モアネット 検索　きょうと多文化支援ネットワーク 検索　でFacebook、ホームページが出ます

第18回総会

2023年7月22日、京都市地域多文化交流ネットワークサロンで第18回総会を行いました。2022年度活動報告と会計報告、2023年度事業計画と予算案について提示し、すべて承認されました。その後、意見交換を行いました。

2022年度から京都市の助成金が支出の半額になり、単年度では約23万の赤字になりました。今後事業を継続し、かつ充実させるためにどうすればいいか意見交換しました。

現在の活動は主に①従来からやっている心の支援、寄り添うこと、②ソーシャルワーク的活動の2つがあり、どちらも必要です。特に日本語での会話が困難な外国人に対して、母語通訳をし、関係機関と連携しつつ精神的な支援が必要だと分かってきました。メンタル面での問題を抱えている人が多く、「障害者」という枠だけでは区切れなくなっています。家族ごと支援が必要な場合もあり、モアとしてどこまで支援するのかが課題になっています。

今後は、多文化福祉委員を増やすための工夫、活動の必要性を広く訴えること、関係機関との連携の必要性が確認されました。具体的には、①大学のボランティアセンターとつながって多文化福祉委員の募集や広報活動を充実させる、②高齢者・障害者・国際関係・地域支援関係の団体等と連携して現状の課題の整理をし、京都市に支援の必要性を訴える、支援の制度化への働きかけをするなどの意見が出ました。

次に、現在活動している多文化福祉委員から活動報告がありました。エコマップを使う練習をし、支援対象者にどんな人が関わっているかを図で理解することができた、対象者が高齢になり、特に独居の人は家族と連絡をとりながら見守ることが重要だとの報告がありました。

最後に2023年度の役員として、共同代表・運営委員の柴松枝氏が退任、代わりに金賢一氏が就任しました。

18年間のモアネット活動を振り返る

モアネットの設立当初から関わり続けてくださった柴松枝さん。高齢のため昨年末で活動を辞められることになりました。現在の想いを書いてもらいました。（村木）

柴 松 枝（シソンジ）

2006年3月。内外の関心の中、外国人福祉委員（現在は多文化福祉委員）養成講座を経て認定された福祉委員43人を含む240人が集まって設立された「モア」。そこに委員の一人として私も参加していました。

居住する山科地域を中心に微力ながら傾聴をはじめ、医療通訳、祖国からの手紙の翻訳や代筆など同胞支援を行ってまいりました。

そして2013年から10年余り、共同代表として加藤博史先生をはじめ沢山の方々のご指導を受けてまいりました。

コロナ感染がひどいときは同胞の安否確認が難しく、その間、何人かの同胞は亡くなりました。

18年経った今、振り返ると私の活動は、同胞支援というよりも私自身の学習の場でした。同胞の人生、生活の話は二世の私が経験したことのない厳しくも生活力にあふれた、とても貴重なものでした。そしてまた、沢山の日本の方たちの人に対するやさしさを学ぶ場所でしたし、一緒に活動していた先輩の同胞に対する慈愛にあふれた姿からとてもいい勉強をさせていただきました。

そんな私もすでに82歳になりました。

これからは自分のペースでモアで学んだことをもとに、同胞たちのお手伝いをしていきます。ありがとうございました。

コリアンSオモニの見守り

村木　美都子

韓国から仕事をしに日本に渡ってきたSオモニ。長年クラブで働きながら子育てをし、一人暮らしになってからは東寺の弘法市に衣類を売って元気に暮らしていました。近くにいた福祉委員のことを息子のように頼って、郵便物のチェックや家電製品の修理など生活の困りごとをしょっちゅう頼んでいました。その後認知症により徐々に物盗られ妄想が出てきて、福祉委員では対応できなくなりました。介護保険を申請したもののオモニはサービスを拒否。福祉委員とケアマネージャーが見守りを続けていました。ある日妄想が元で家に籠城しているとケアマネージャーからモアの事務局に連絡がありました。私たちが外から何度も声をかけてようやく出てきてもらい、私がオモニと話をしている間にケアマネージャーが家族と相談して入院することになりました。家族が遠方で面会が難しいため、成年後見人と私が毎月面会に行っています。最近は表情が穏やかになり、私が「オモニー」と声をかけるとにこっとしてくれ、好きな服のこと、昔元気だったころの話を聞いています。

病院に面会に行っておしゃべりを楽しんでいます
（イラスト　きのしたむぎ）

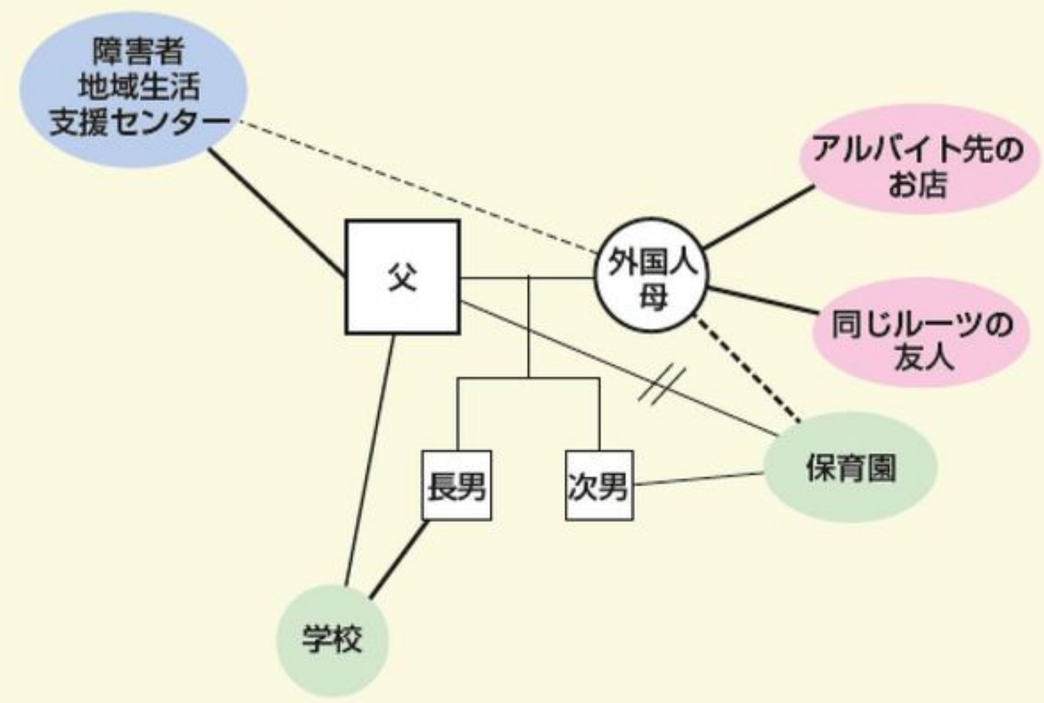
お茶会でエコマップ講座をしました

2023年7月20日、多文化福祉委員のお茶会で「エコマップ講座」をしました。

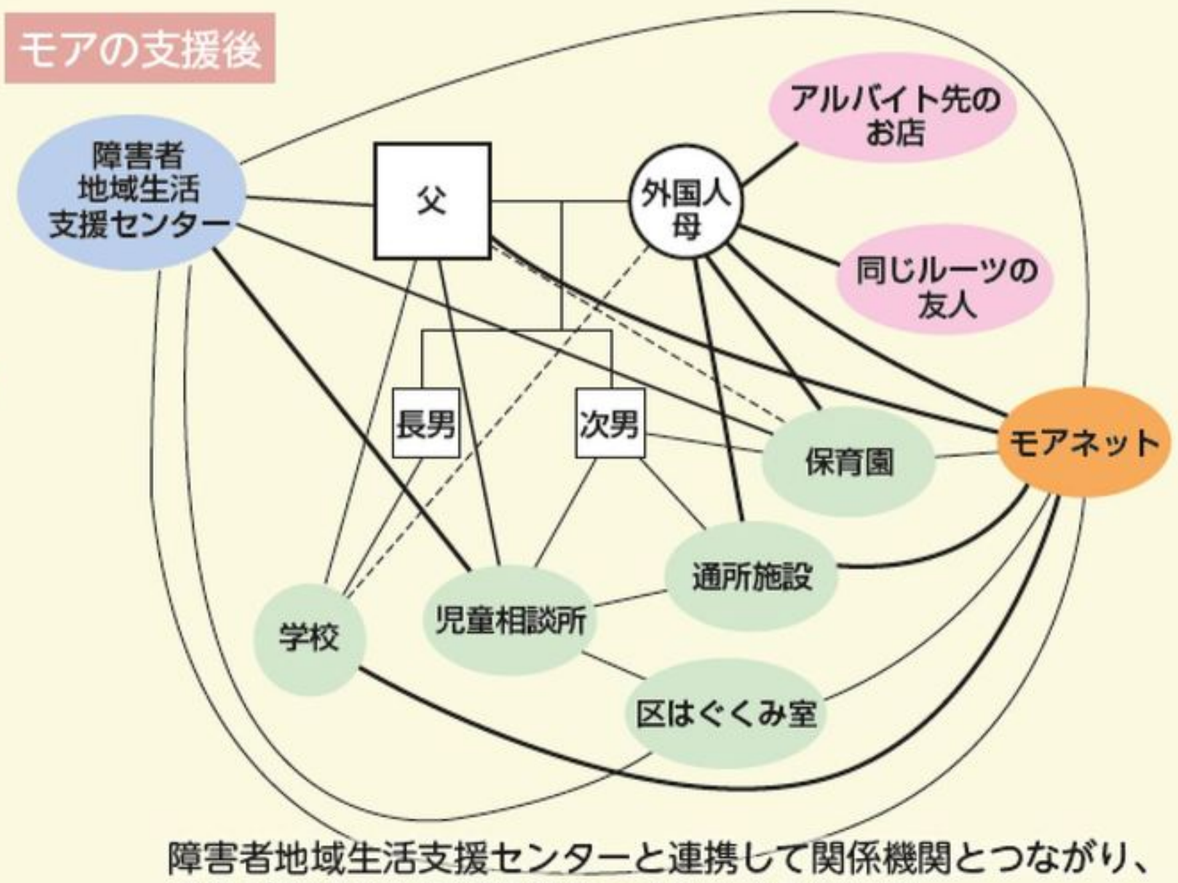
モアネットの支援前/支援後でどのような変化があったのかを「見える化」するためです。運営委員で龍谷大学の遅力榕（ち・りよう）先生に教えてもらいながら、仮ケースについてマップを作ってみました。難しい部分もありましたが、本人をめぐりどんな関係がある/ない、強い/弱いなどが分かり、今後の支援の方向性も見えてきました。

◎ エコマップづくり　多文化福祉委員「お茶会」でやってみました　～支援の見える化～

モアの支援前



モアの支援後



障害者地域生活支援センターと連携して関係機関とつながり、
家族が関係者と信頼関係をつくれるように応援

外国ルーツのある方で障害を持っている場合の支援の難しさについて

卞 嘉 娜（ぴょんかな）

グローバルセッションで発題する卞さん

卞さんは京都市東部障害者地域生活支援センターらくとうに勤めながら、多文化福祉委員の集まり（お茶会）に参加して、生活支援の必要な対象者について、福祉委員と一緒に動いてくれています。以下は、センターで支援している外国ルーツの家族の問題についてです。2月23日に行われたきょうと多文化支援ネットワーク主催のグローバルセッションでも発題してくれました。

現在、日本にはいろいろな国籍を持った方が地域で私たちと共に生活しています。日本で生まれ育ちこの環境に溶け込んでいる方は日本の文化を受入れ生活しています。また、生活で困ったことは内容に応じて相談先を選んでいます。でも、障害についての相談となると（日本で慣れ親しんで生活している方でも）少しハードルが上がります。外国から日本に来られた方は日本語が堪能でないこともあり、もっとハードルが上がりさらに困るのです。

この困りごとは支援する側も同じです。例えば①身体障害で家族と一緒に生活し多くの支援を受けている方、②子育て世帯だが、親御さんが精神疾患の方、③発達障害の子どもを育てている方、この3つどれも共通することは『言葉の壁』。

まず、支援をする中で、日本語が上手でない本人の思いをすべて聞き出すことは難しい。日本の福祉制度の説明が難しく伝えにくいのです（福祉制度は国によって異なるため、通訳機器を利用しても伝わらない）。また生活習慣やアイデンティティの違いがあり、本人の思いをくみ取る事も困難です。

私は、外国ルーツを持つ方に日本の文化（福祉制度等）を知って生活してもらうことで、それらが『困ったときに役立つ』ことを知ってもらいたいのですが、うまく伝わりません。支援においてこの様な難しさを抱えているのです。

母親が外国ルーツの家族支援

村木 美都子

１年半前、ある地域の障害者地域福祉センターから相談がありました。フィリピン人母、日本人父、小学校高学年で渡日した中学生の長男、日本生まれで幼児の次男４人家族。長男がコミュニケーションの課題を抱えているので、母と話をするため通訳をお願いしたいとのことでした。家族みんなに会ってみると、母は日本人とのつながりが少なく、日本語で言いたいことが十分に伝えられない状況でした。父は心のケアが必要、次男も家族への意思伝達が十分できていませんでした。支援センターと家族と私たちでやりとりするうちに、いろんな問題が見えてきました。

①母が文化の違い・言葉・育児の問題でストレスを抱えていること、②子どものコミュニケーションの課題が、父と母の２つの言語の間で混乱しているからなのか、発達に課題があるからなのかわかりにくい、ということでした。父とは私が連絡を取りあい、母にはフィリピン人福祉委員が母語で、私は簡単な日本語会話とローマ字でラインのやりとりを始めました。私たちが母へ支援を始めたことで、支援センターを中心に子どもの関係機関（保育園、通園施設、学校、役所、病院、コミュニティカフェなど）とのネットワークが広がりました。家族それぞれの生活課題はありますが、私たちは、関係機関と連絡を取りつつ、家族間で少しでも衝突が減るように、また特に母の心のサポートができるよう応援と見守りを続けていきたいと思っています。

次男の通園施設で。福祉委員が母の通訳に入り、施設スタッフとやりとりができるようになりました。母は日本人との関係ができて少しずつ日本語が上手になり、笑顔が見られるようになってきました

「広報部」ができました

龍谷大学　伊野　涼雅

私は一昨年から多文化福祉委員として活動しており、京都モアネットの取り組みは学生にとって【普段の授業では学べない新鮮な体験】と【幅広い年代の方々との協働関係・人脈形成】に大きな魅力があると感じています。いっぽう活動を続ける傍ら、京都モアネットは若者との接点が少ないこと、そして多文化福祉委員の活動に参画する機会を学生自身が見い出しにくいことに、一学生の立場として実感するようになりました。そして自分の中で一つの問い、「京都モアネットの取り組みを起点として、若者がコミュニティに参画していくようになれば、もっと地域は活気づくのではないか」と想うようになりました。これが広報活動を始めたきっかけです。

2023年6月に学生２名で始動した『京都モアネット広報部』は【若者と京都モアネットをつなぐハブとしての役割】と【多文化福祉委員の魅力の発信】を目的としています。今年度は「学生に届ける・伝える」をテーマに、若者の利用者が多いX［旧Twitter］での情報発信をスタートし、大学ボラセンほか各種機関に向けてボランティア募集チラシを発行しました。次年度は「多文化福祉委員の見えざる魅力を伝える」ことを念頭に、SNS投稿にかぎらず記事や冊子形式で、数ではなく質で、一つ一つ丁寧に伝えていこうと考えています。まだ活動は始まったばかりです。

コリアンが多く住む東九条地域のフィールドワークを企画しました（「X」の画面より）

ボランティア募集のチラシを作成

●多文化福祉委員～ 一緒に活動してみませんか？

外国にルーツのある高齢者や障害のある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からの依頼に応じて、ご自宅を訪問、あるいは電話や来所にて相談をお聞きし、活動を行います。

文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため、生活に困ることがあります。

外国語ができなくてもＯＫ。日本に長年滞在されていて、日本語がわかる方も多くおられます。

★交通費程度の活動費が支給できます。

★簡単な講座を受けていただき、登録の上、必要時に活動いただきます。

●活動内容

①電話相談：電話でご相談をお聞きします

②傾聴活動：来所や自宅にてゆっくりお話をお聞きします

③その他の支援：既存のサービスや制度ではまかなえない部分の支援～病院や役所などの手続きを一緒におこないます

④通訳：医療機関や役所等で、ご本人の意見や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします

★文化的背景がちがっても、自分らしく生きることのできる生活を応援します～

2022年度支援内容

福祉サービス紹介・指導	介護保険	受付相談	0
		サービス利用・内容	0
		その他	0
	生活保護		0
	高齢者福祉		0
	障害者福祉		1
	その他の保健福祉サービス		0
	小計		1
相談・傾聴内容	安否確認		852
	生活関係		729
	家族関係		270
	人間関係		98
	生きがい相談（趣味活動）		157
	精神面		135
	経済面		20
	言語・コミュニケーション関係		30
	民族文化・歴史等		106
	健康（病気・体調）		670
	栄養食事関連		118
	その他		24
	小計		3209
関係機関との連絡調整	役所	福祉事務所	14
		その他（保健センター・健康保険関係等）	7
	自治会、地域団体など		0
	民生委員・老人福祉員		0
	社会福祉協議会		0
	介護保険関係		163
	障害福祉関係		54
	その他（ライフライン・医療関係・家族・近隣住民等）		105
	小計		343
直接対応	緊急対応	病院・診療所への連絡	2
		警察・消防署出動要請	0
	病院受診同行・入退院手配など		57
	通訳（医療・行政・ライフライン等）		38
	家事援助		11
	身体介護		51
	生活支援（代読、代筆、外出同行、制度の説明など）		152
	小計		311
合計			3864

2022年度	対象者	72
	活動した福祉委員	22
	活動件数	965
	のべ支援内容	3864

京都外国人高齢者・障害者 生活支援ネットワーク・モア収支報告書

（2022年4月～2023年3月）

（単位：円）

科目	2022決算		
1．収入			
京都市助成金	946,741		
賛助寄付金	736,648		
会費	33,000		
預金利息	22		
雑収入	0		
当期収入合計 (A)		1,716,411	
2．支出			
1）福祉委員派遣事業に係る費用			
・報酬費	491,000		
・連絡調整費	211,500		
・上記に関する交通費	117,240		
・通信費	36,668		
・事務費	9,597		
・賃借料	600,000		
・雑費	0		
		1,466,005	
2）福祉委員研修			
・報酬費	219,200		
・交通費	2,160		
・事務費	19,080		
		240,440	
3）福祉委員募集			
・報酬費	48,400		
・交通費	6,600		
・事務費	106,867		
・通信費	25,170		
		187,037	
4）ネットワーク強化			
・報酬費	46,600		
・事務費	4,202		
・交通費	1,840		
・雑費	0		
		52,642	
当期支出合計（B）		1,946,124	
当期収支差額 （A）-（B）			▲ 229,713
前期繰越差額			512,761
次期繰越額			283,048

編集後記

オールドカマーコリアン１世、２世の対象者の何人かが亡くなりました。そして、他の外国籍で高齢者や障がいのある、または心の問題を抱えている人が増えていることが分かってきました。その人の生活文化のちがいを知ることの楽しさを知り、生きづらさの原因が社会にあることに気づいて一緒に何とかしてみる。コリアンハルモニ・ハラボジから学んできたそのことの大切さは普遍です。今年は特に若者に伝えて一緒に楽しく動きたいです。少しでも興味のある人、連絡くださいね。 （み）

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」（京都モアネット）
〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12 京都コリアン生活センターエルファ内
TEL 075-681-2721 ／ FAX 075-693-2555 E-mail kyotomorenet@yahoo.co.jp
郵便振替口座：00990-4-314429
加入者名：京都外国人高齢者障害者生活支援ネットモア

♥支援カンパよろしくお願いします♥